

パパ活したら

パパ

でした♡



さく：みずいろめがね

——パパさんです。

アラフィフ、
バツイチ、
年頃の娘がひとり。

近頃メタボ気味。

気持ちが優しいのを
除けば、
取り立てて
取り柄のない
ごくごく平凡な男。



奥さんは浮気相手の
もとへ走って離婚。

会社は不況のあおりを
受けてリストラ
されました。

現在再就職活動中。

不運を
絵に描いたような
中年男です。



——ところが、ある時、不思議な偶然が起こって…

—— こんなメッセージが届きました。

こんにちは！いきなりですが
わたしとパパ活しませんか？

えっ、なに？きみ誰？（…

とおりがりのJKです♪
今、パパ活してくれる男の人
大募集中です！どうですか？

ふ〜ん。一体ナニをするの？

おしゃべりしたり、デート
するかわりに、おこづかいを
いただきます。楽しいですよ♡

ほう…いいよ

マジ？やった〜ラッキー♡

日頃の彼にも似合わず
なぜか承諾の返事をして
しまうパパさん。
とうとう逢う約束まで
してしまいました♡

—— てなわけでファミレスで
待ち合わせすることになったパパさん。

(…しかし、これは引っかけだろう。
いくらなんでも俺みたいな年寄りを
女子高生が相手にするはずが…)

「あれーっ、パパじゃん！
なにしてんの、こんな所で」

現れたのは
なんとパパさんの
娘の裕香ちゃん。

「…えっ、ナニ、じゃあパパ活の
相手って…パパなの？」

「え！？じゃあ、あのメッセージは
おまえのかい？」

「あっちゃ〜〜…」

登録サイトに送るつもりで、うっかり
実の父親へ送信しちゃった裕香ちゃん。
当然ながらめちゃくちゃ気まずい二人です。

「ダメじゃ
ないか」

さすがのパパさんも
ビシッと云います。

「年頃の娘がこんな真似を…
悪い人に引っ掛かったら
どうするんだ」

「え〜…じゃ〜あ、パパさんは
どうしてここにいるんですか〜？」

「うっ。それは、その……すいません」

「だいたいなんで
パパ活なんだ？」



「それは…おこづかい
貰えるっていうし…
家計の足しになるかな
って…」

「裕香…」
ちょっと自分が
情けなくなる
パパさん。

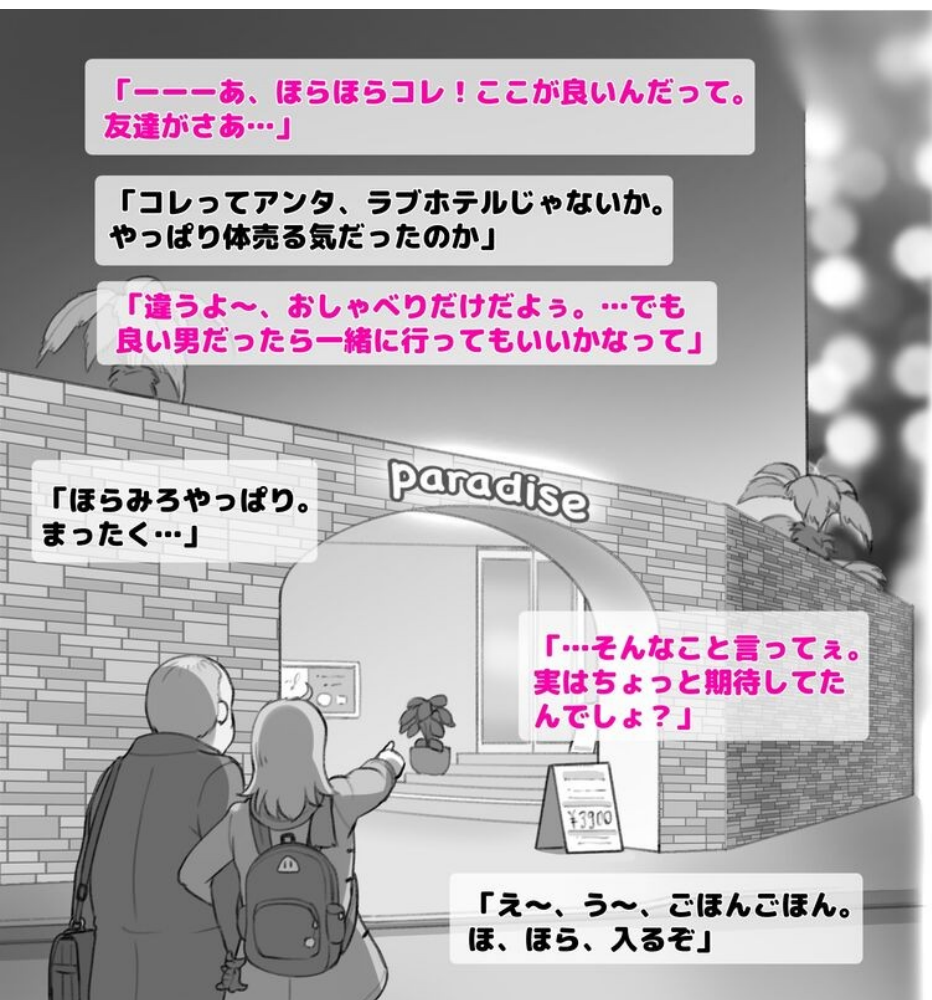
「お前はそういうことを
心配しなくていいんだ。
小遣いが足りないなら
パパがなんとかする。
だから、こういうのは
やめにしよう」

「…怒ってない？」

「こんなみっともない格好
見られたら怒れませんよ。
…う、その、なんだ、
喧嘩両成敗というか、
ふたりとも出来心って
ことでひとつ、手を打とう。
なんか食べてくか？」

「ああ、よかったぁ〜♡嫌われたら
どうしようって…あ、でも、
ちょっと寄ってみたい所があるんだけど」

「え？」





「パパ、ほらほら！
記念の写メ写メッ♡」

「お？おお」

「はい、チィ〜ズっと♪」

パッヤ

(…顔まで
撮っちゃったぞ。
コレってマズく
ないか？)

パッヤ♡

一段落したところで、
ふたりの間にビミョ～
～～～……な空気が
流れます。

実の父親と娘
とはいえ、
場所はラブホテル。
しかも、ふたりとも
それっぽい目的が
あったという…

(…まいったなあ。
こういう時ナニを
話せばいいんだ？
JKの話なんて知ら
ないぞ)

「ーパパってさ、
今恋人いないの？」

「…え？」

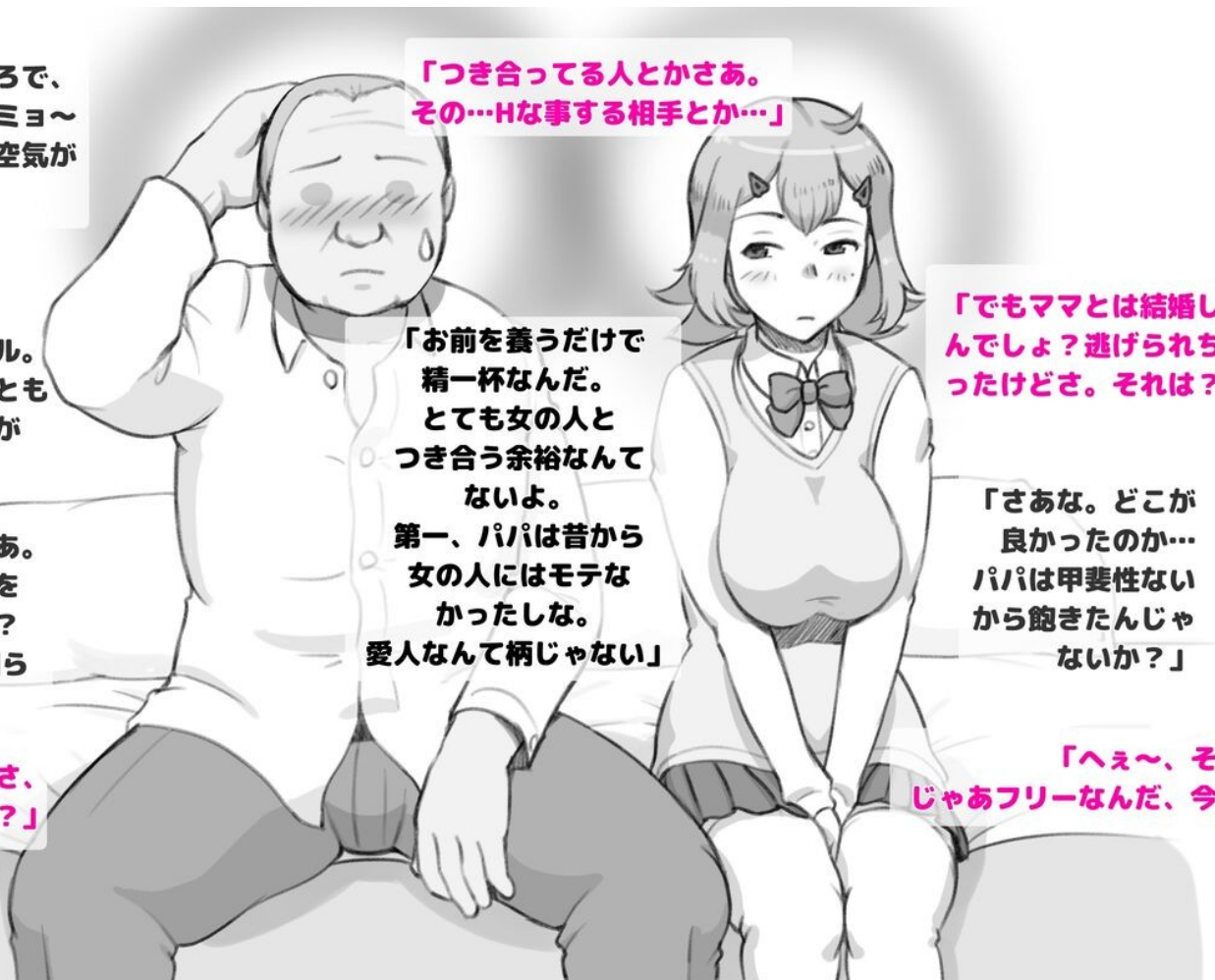
「つき合ってる人とかさあ。
その…Hな事する相手とか…」

「お前を養うだけで
精一杯なんだ。
とても女の人と
つき合う余裕なんて
ないよ。
第一、パパは昔から
女の人にはモテな
かったしな。
愛人なんて柄じゃない」

「でもママとは結婚した
んでしょ？逃げられちゃ
ったけどさ。それは？」

「さあな。どこが
良かったのか…
パパは甲斐性ない
から飽きたんじゃ
ないか？」

「へえ～、そう。
じゃあフリーなんだ、今…」



「——じゃ〜あ、こ〜んなのどーお？
見たことないでしょ、最近。パパだから
特別サービスしたげる♡」

「おろっ!？」

「そっそそそんなモノ
しししまいなさい!」

ムキッ♡

むふふ♡

プルン♡

ドキ♡

思わず凝視するパパさん。
それというも裕香ちゃんのおっぱいが
どう見ても90…下手をすると100は
ありそうなFカップ確定の巨乳だったからです♡
いきなり魅惑の谷間を魅せつけられ、うろたえる父親なのでした♡

「とか言っってえ、ガン見
してんじゃん月
いいんだよ〜？
娘から日頃の感謝の
し・る・し♡
ほれほれ、もっと
顔を近づけたまえ〜♡♡」

——ズキッ♥

パパさんの股間が疼きました。

(ええ!? おい、ちょっと待て)

ムクッ♥

いきなりムスコが頭をもたげたので
自分でもビックリ。最近はずっぱり
勃たないので、もうお役御免か
と思っていたのですが…

(ま、マズい。
娘に見られたら…)

ほ♥

「…あれ～え?
パパ、それ
なあにい?」

「ううっ」

あっさりバレる
パパさん。股間は
ドクドクと疼いて
萎える気配も
ありません。

「——うわ、ナニ
そのサイズ!?こんなの
見たこと…
ちょっと見せてよ」

「ゆ、裕香。やめなさい。年頃の女の子が見るもんじゃない」

「うっわ、ナニこれ!?
すっごいビンビン…
マジ巨根〜〜〜♡
サイズすっごーい♡♡」

ええ…?!

「ナ〜二言ってるの、
娘のおっぱい見て
勃起したくせに♡
ほい、脱ぎ脱ぎ…っとう」

すっごー♡

裕香ちゃんが嬌声を
上げるのも無理あり
ません。

「ううう…!」

いそいそと楽しそうに
ズボンを下ろす娘ちゃん。

20センチはありそうな
赤黒くてグロテスクな
イチモツが屹立してい
たからです♡

(…おかしいな。
こんなに大きかった
はずはないんだが…)

「…うわっ、鼻曲がりそお…♥
パパ、カリ裏ちゃんと洗ってないでしょ？
チンカス残ってるよう♥おじさんチンコはあ♥」

(……ああ♥なんだろ、すごい
ドキドキするう♥親父チンポに…)

「ゆ、裕香、やめなさい…
そんなことしちゃいかん」

「…ホント？やめていいの？
あたしの手コキ気持ちよく
ない？いいんだよ、日頃の
恩返しなんだから…♥」

「ああ…っ♥♥♥」

実に何十年ぶりかの手コキに
パパさんは喘ぎました。お尻の
穴がギュッと絞まるほど感じます♥



「…パパ、あたしのパイズリ気持ちいい？どう？」

柔肉が中年ペニスに絡みつき吸い着くように
摩擦します。少女の若いスベスベのお肌が
ゴツい肉棒を扱きました。

「おお…パ、パパのチンポがとろけ
そうだ♡…お前、こんなこと彼氏に
やっているのか…っ♡」

「違うよ、パイズリは今日が初めて♡
っていうか、彼氏いないし。
ちょっと遊んだことあるけど…」

「そうなのか？すごく
じょ、上手だぞ…」

「よかったあ～、喜んでくれて♡
ほれ、もっとシゴくよ♡ほれほれえ♡」

「!…い、いかん、射精そうだ。
すぐにどきなさ…ああ♡♡♡」



おっ♡おっ

ビュッ

ビュルッ

ビュ

——驚いたことに、娘ちゃんは避けませんでした。

その反対に大きく口を開けて
父親の白濁液を
口便器で受け止め
しまったのです！

濃厚で臭い精液が
大量に口中へ注がれ
喉奥を撃ちました。

裕香ちゃんは舌を伸ばして
オヤジ精液をこぼすまいと
したのです♡

(んぐっ、んぐっ…
くっさくて
ドロドロの精液い♡
こんなの飲んだら
アソコが興奮
しちゃう…っ♡)

ビニョウ♡

ドロオ……

んぐ♡

んぐ♡

室内にむせるような男臭い匂いが漂います。

「はぁ、はぁ…出しちゃった…♡
お、おい、裕香。大丈夫かい？
汚してすまないね。体を洗っておいで」

——そんなパパさんの言葉もうわの空。
濃厚性液を浴びた娘ちゃんは喉に残るニッチャリした粘液と垢臭い匂いに酔い痴れてしまいました♡

(…ヤバイ、あたしキちゃったかも。こんなに濃い精液初めて…なんかときめいちゃう♡)



くたびれた父親のペニスなのに、娘ちゃんは今までにないほど胸が高鳴ったのです♡

(こんなチンポ、マジ初めて…♡
太くて臭くて黒くって…
野獣みたい♡
こんなで膣内を掻き回されたら
どうなっちゃうのかな…♡♡)

裕香ちゃんは自分からフェラチオを始めました♡
カリ裏を舐めてチンカスをこそぎ落とし
亀頭から肉棒の根本までまんべんなく
舐め回します。金玉まで啜える
念の入りよう。

あ〜♡
ベロッ
うっ…♡
はっ♡
はっ♡
はっ♡
ん〜♡
はふ♡
ヌル♡
ルン♡
ゆ…やが♡
おほお♡

思いがけない娘の積極サービス…
パパさんは腰が抜けそうな快楽に
身を任せるしかありませんでした♡

**思いがけない娘の積極サービス…
パパさんは腰が抜けそうな快楽に
身を任せるしかありませんでした♡**



ついに娘ちゃんは父親の野太い
チンポを咥えました♡

「!?ゆっ、裕香っ、それは…
ああああああ♡♡♡♡」

パパさんが仰け反ります。
実に久しぶりのフェラチオに
中年男は悶えました♡

(うっ上手い…っ♡
どこでこんなテクニック
覚えたんだ♡)

にわかに嫉妬の炎が燃え盛る
パパさん。自分の娘が他の男に
…と思うと、カッとなりました。

「ゆ、裕香は悪い娘だな…！
そんな悪い娘は…♡」

「ーんぐぶるっ!？」

父親からいきなり
イマラチオされ、
娘ちゃんは
目を白黒し
ました。

…けれど、
乱暴に頭を掴まれ、
腰を叩きつけられ、
喉奥がえずくほど
突かれても、
決して父チンポを
離そうとしません。

実をいうと、普段は大人しい
パパさんが目の色を変えて
自分の口便器を犯すことに
娘ちゃんは新鮮なドキメキを感じ
股間を濡らしてしまったのです♡♡





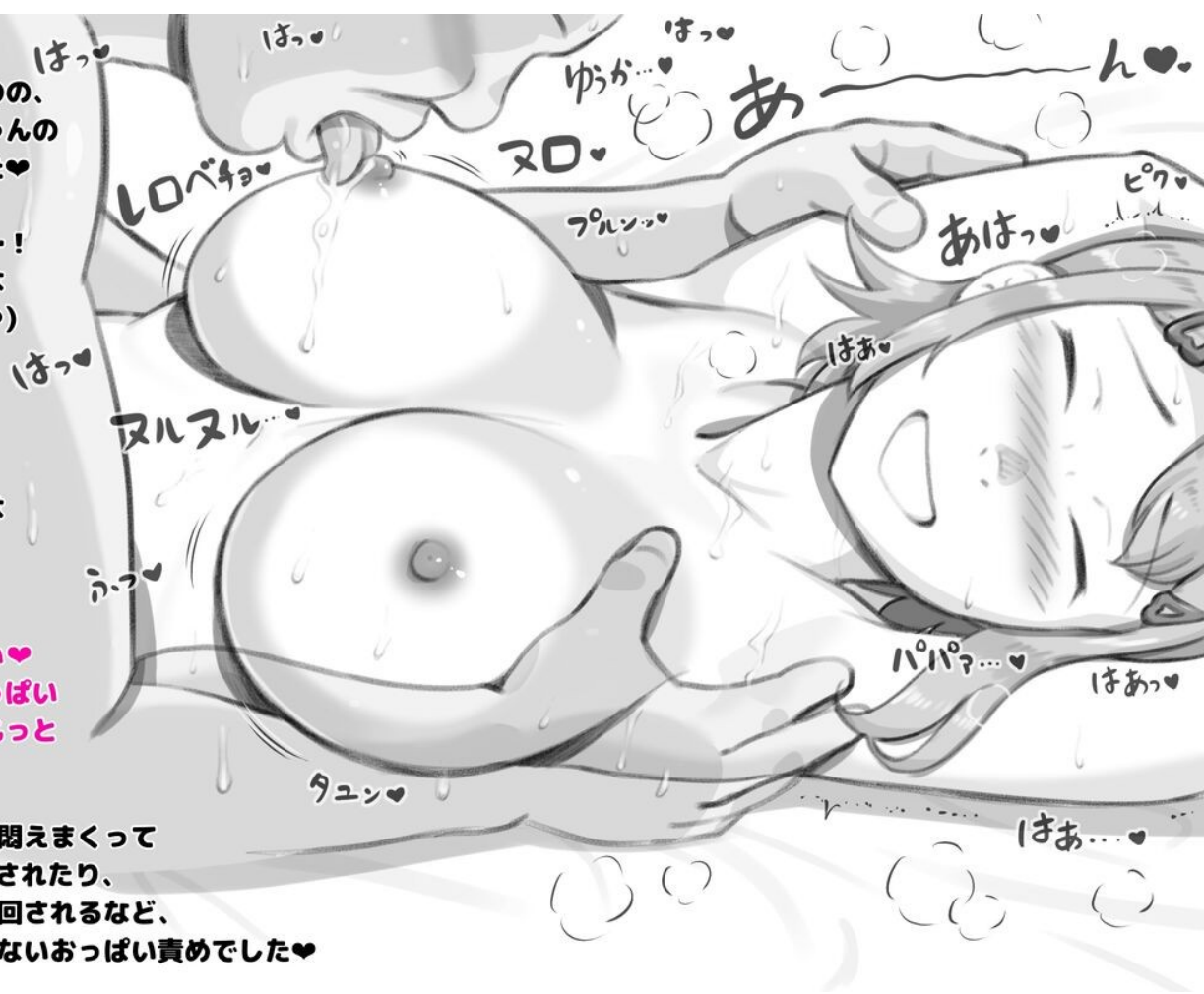
2度目だというのに
パパさんは前よりも
多く射精しました♡

父親子種汁が実の娘の
口中へ流し込まれ
喉奥から胃へ到達します。

娘ちゃんはしっかりと
パパペニスを咥えたまま
喉を鳴らして美味しそうに
飲み干しました♡
そしてなおも強く
バキュームし、
舌先で亀頭の鈴口を擦って
一滴残らず囓ろうとします♡
その健気な姿にパパさんは
ジン…としました♡

「裕香、おまえ、
俺の精液飲んで
くれたのか…♡♡♡♡」

中年男の執拗な愛撫に悶えまくって
います♡乳首を甘噛みされたり、
緩急自在に乳房を捏ね回されるなど、
今まで経験したことのないおっぱい責めでした♡



—— さらにエスカレートするふたり♡ () は♡

「パ…パパ…オ、オマンコする前に
こ、こんなにす…ああん♡るの？
指でえ…♡」

「もちろんだよ。
なんでだい？」

「だってえ、男の子ってすぐ
ツッコミたがるでしょ？
今までの男子ってそうだったよ」

「え？ナニを言ってるんだい、
する時は前戯しなきゃだめだろう。
ちゃんと濡らさないと危ないぞ？」

「そ、そうなんだ…？
パパやさしい…っ♡」

「そんなの常識ですよ。今度から
彼氏は選びなさい。…さあ、パパ
の指は気持ちいいかい…？」

「あああん♡」

「あ♡らめっ♡クンニ
らけでイクっ♡パイ舌
でイックうう♡♡♡」



————— そしてとうとう、本番をすることになりました。

「裕香…本当にいいのか？
父娘でSEXするなんて…
もうやめにしても
いいんだぞ？」

「…ナニ言ってるの今さら？
あたしのマンコ濡れ濡れだよ♡
パパのチンポ欲しくって
疼いてるんだよ？
こんなにした責任取ってよ…♡
パ、パパだって
あんなに出したのに
ギンギンに勃起して…
挿入れたそうじゃん♡」

「じゃ…いいんだな？
ほ、本当に挿入れるぞ？」

「あん…早くう♡」

ドキドキドキ…♡

はぁ♡

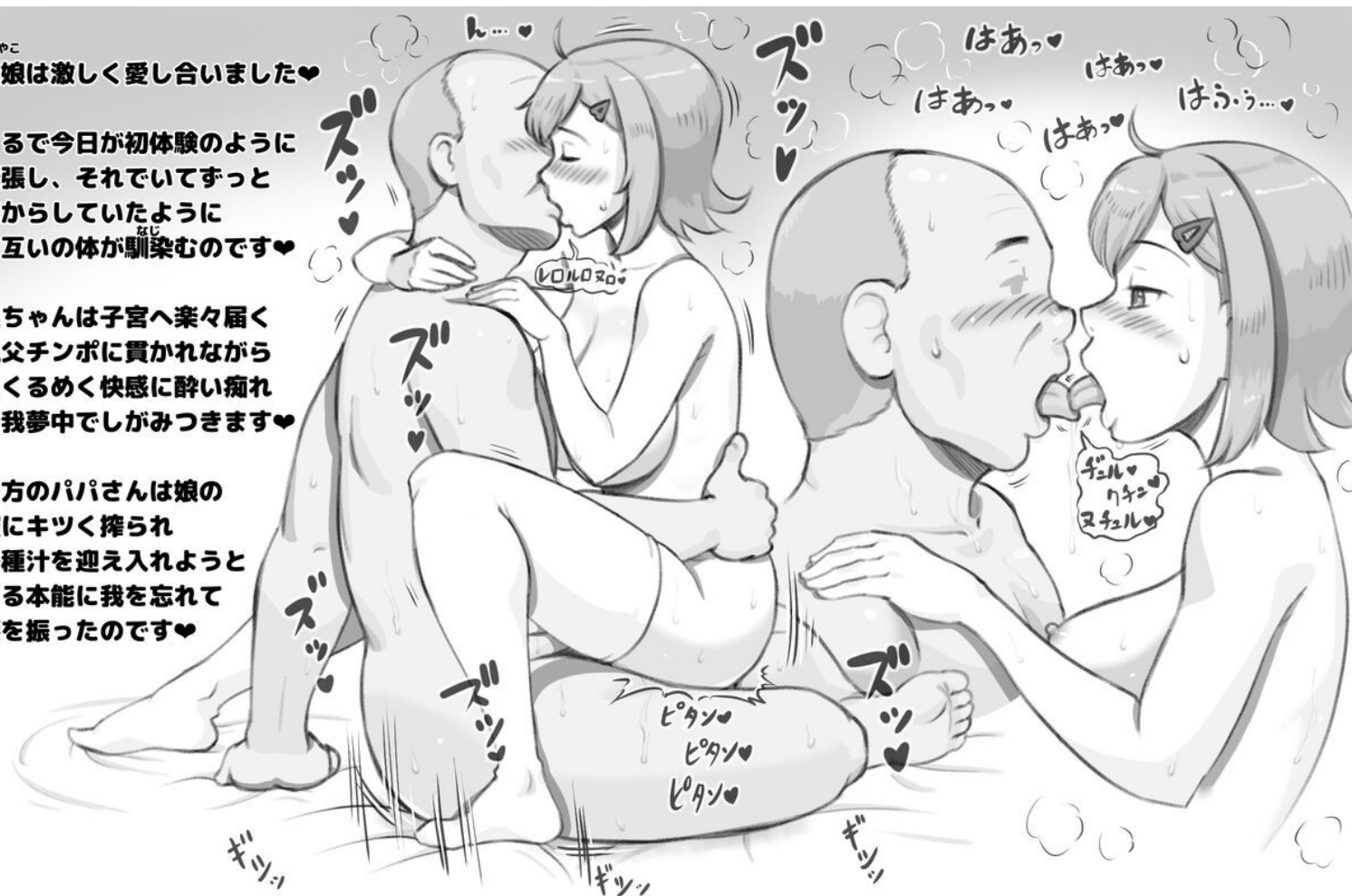
はぁ♡





まるで今日が初体験のように
緊張し、それでいてずっと
前からしていたように
お互いの体が馴染むのです♡

一方のパパさんは娘の
 膣にキツく搾られ
 子種汁を迎え入れようと
 する本能に我を忘れて
 腰を振ったのです♡





普段は温厚な
パパさんが獣の
ような雄叫びと
ともに大量の子種汁を
射精しました♡
雄の本能が目覚めたのか
娘ちゃんを荒々しく
組み敷いて…

「あああ
熱いい♡
パパのセーエキ
いい♡♡」

「……えっ？」

「――あれ？
コレって破れて
くない？」

「…ナニい!?」

なんとコンドームは
破れていました！
なので、思いっきり
精液を娘の子宮へ
流し込んでしまった
のです♡

(し、しまった。
あんまり気持ち
いいものだから
つい激しくやり
過ぎたのか…っ)

はれれ？

ガビーン!

ああ…

ポタポタ…



「…どうしたのパパ？
元気出して」

「すまんあ、裕香…
おまえの優しさに
甘えてこんな事を
してかすなんて…
情けないよ、父親
として。実の娘を
手に掛けるなんて…
妊娠したらどうすれば」

「大丈夫だよ、パパ♡
あたし、優しいパパが
好きだよ。それにエッチも
凄くて…何回もイッた
んだよ？あたし、パパ
の子なら妊娠してもいい♡」

「なにを言うんだい、
おまえ…」

ッポボン…

「あたし、本気だよ？
だってパパ最高だもん♡
いっそ子作りしようよ♡
パパとあたしの子♡
一緒に、ね？」

「裕香…
おまえって娘は♡」

ん〜♡ チュッ♡ チュッ♡ チュッ♡





「——ほうら裕香、
どうだ？パパと裕香が
繋がってるの見える
かい？」

「ああああ♡いや
あ〜〜んん♡
丸見えええ♡
パパのチンポがあ
ズッポズッポって
マンコにハマって
るうう♡…は、
はずかしいよおお♡
パパのエッチィ♡
エッチ中年ん♡」

「そうかい？
エッチな親父は嫌かい？
ならもうやめようか？」



「♡んんダメええ♡
やめたら怒るうう♡
もっとエッチして
えええええ♡
パパチンでえ♡
マンコ犯して
ええええ♡」

「淫乱だなあ、裕香は♡
どうしてそんなに
エッチな娘に
なったんだい♡」

「だって♡パパの子
だもん……♡♡」

「おっ、そんな事を言う
なら腰をもっと突き上げ
るぞ♡ほれ♡ほれ♡」

「♡ああ♡それええ♡
もっとおおおお♡♡♡」





ドスッ
あひっ
ドスッ
あひっ

ドスッ
あひっ

ドスッ

ドスッ
あひっ
ばはっ

そしてやっぱり
種付けプレス♡
押し潰すように
のし掛かるパパさんが
腰も砕けよと攻め続けます♡

娘ちゃんは
甘い悲鳴を
上げっぱなし...♡
パパさんの逞しい責めに
翻弄されていました♡♡♡





白眼を剥いて絶頂した娘ちゃんは
長い間気絶したまま痙攣して
いました…♡

パパさんはパパさんで
チンポが抜け落ち
そうなほどの
快感を覚えたのです♡

信じられないことに
父娘SEXで初めての
子宮貫通を経験した
ので無理ありません。

「……ゆ…裕香？
大丈夫か…？」

「♡…はひっ、…はひっ、
こ…こんらの初めへえ…♡♡♡」

ドロオ…♡

—— 激しい行為の後に
愛の余韻に浸る父娘…♡

娘ちゃんは失神するほど
愛され父親に惚れ惚れ♡
パパさんは娘から優しく
され若さを取り戻したか
のよう♡

「パパって実は
すっごかったん
だねえ♡きっと
ママもそこに
惚れたんだよ」

「そうかい？
おまえが優しく
してくれたから
頑張れたんだ。
ありがとうな♡」

「…あたしは、本気で
パパ活してもいいよ？
マジつき合っちゃう♡
エッチも中出しで
OKだよ♡♡♡」

「裕香は優しい子
だなあ…♡♡♡」



「——あ、その人。
ちょっとお伺いしますが、
どういったご関係で？」

「…だって～、パーパ？」

「『パパ』？」

「この子の父親なんですが…」

——と、免許証と学生証を
見せるふたり。

「あっ…失礼しました！
最近若い子の売春が多い
もので…お氣をつけて」

「クスクス…
『お氣をつけて』
ってさ♡」

「笑っちゃういかん。
お巡りさんも大変
なんだから」

「もしかして恋人同士に見えたのかなあ？
…ねえ、パパア…♡」

「ん？どうした」

「パパ、まだ元気？あのね…したいの…♡♡♡」

「——えっっ！！？♡♡♡」

恋人みたい…

ふふ♡

ドキッ



「パパ……♡」

「裕香っ……♡」

家に着くなりパパさんは玄関先で
娘ちゃんを押し倒しました。

そのまま前戯抜きで
いきなりギンギンに
漲ったチンポを
突き刺し激しい抽送を
始めます♡

もちろん娘ちゃんの
マンコはとっくの昔に
濡れそぼって
父親のペニスを
迎え入れたのです♡

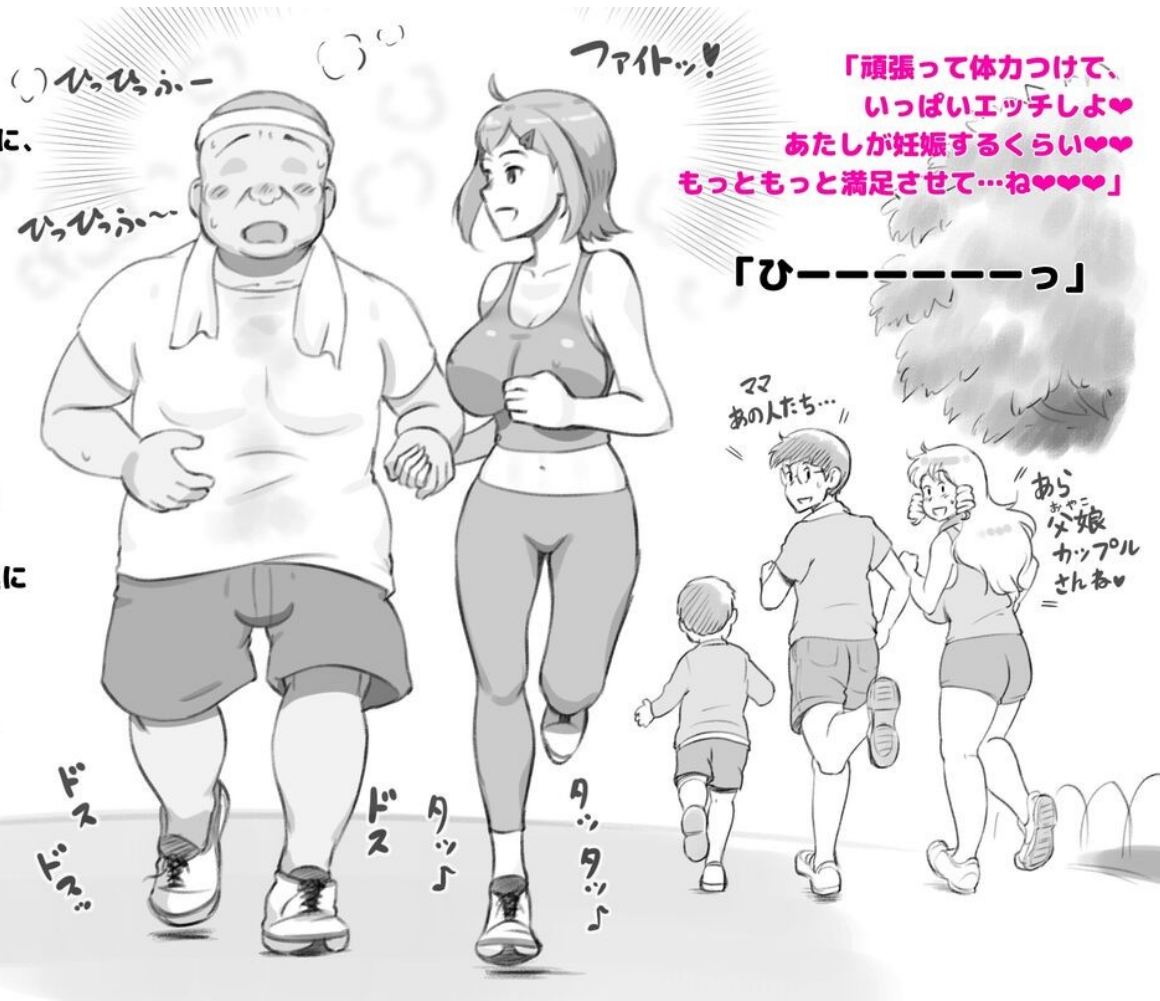
恋の虜になったふたりは
朝まで何度も何度も
交わったのでした
…♡♡♡



「——はあっ、はあっ…
ゆ、裕香…っ。これ、ホントに、
続けるのかい…??」

「そだよ～月スタミナ
つけなくっちゃ、ね♡」

———あの日以来、
パパさんと娘ちゃんは
すっかり仲良くなりました♡
元々仲は良かったのですが、
今では毎日朝も夜も父娘交尾に
励んでいます♡♡
まるで、というか、本物の
恋人同士…娘ちゃんはもう
パパさん一途なのです♡♡♡





「ーほうら裕香、
どうだい？パパ少し
遅くなったろう♡」

今では
毎日4発はイける
パパさん。今日も
元気に娘ちゃんを
犯しています♡

「♡んああ♡イツ♡
パパに愛されてへ♡
犯しくなるうう♡」

「しばらくは彼氏の
代わりになるぞ♡」

「んん、もおイツ…
彼氏いないいい♡
あたしのマンコ、パパ専属
だからあ♡♡
好きに使ってえええ♡♡♡」

「♡…そうか、なら、
パパのチンポも
裕香だけのモノだ♡♡
いっぱいお遊び♡♡♡」

「♡♡♡あああパパすきいい♡♡♡」

「…裕香、辛くないかい？
痛かったらすぐお言い。
ゆっくり動くからな…♡」

「う、うん…ごめんね、
ちゃんとシテあげられ
なくて…♡」

毎日毎日飽きることなく
子作りSEXを続けた結果
娘ちゃんはめでたく懐妊
したのでした♡♡♡

「なにを言うんだい、
パパはうれしくて
泣きたいくらいだ♡
おまえは本当に
優しい子だ…♡」

娘ちゃんのために
頑張って再就職も
決まり、今は
父娘の夫婦生活。
将来は誰も知らない
町へ引っ越し
結婚式を挙げる
つもりです♡

「♡これからもういっぱい
いっぱい愛してね、
あ・な・た…♡♡♡」

♡おしまい♡



★あとがき★

願望を込めました(笑。

…という話はさておいて、お買い上げ
ありがとうございます★

普段は母親と息子とか母親と娘を中心に描いて
おりますので、いつか父親、それも真面目で
穏やかでモテなそうな親父とその娘の恋を
しんみり描きたい…と思っておりました。

もっとも出来上がったのは「しんみり」
どころではないですが…。(^^;

娘の裕香ちゃんがリードする話にしたかった
ので、エッチに興味津々だけど根は優しい子
にしました。淫乱だけど優しい女の人って
好きなんですよね～。

パパさんはもちろん自分がモデルではありま
せん(笑。ビール腹はそっくりですが、ペニス
のサイズが平均以下の自分にはとても無理な
ご立派な羨ましサイズにしました。(; ヽ ;

こんな需要があったら嬉しいです♥
ではでは～★